

事態把握と語り

—コノウエとソノウエをめぐる—

長谷部 亜子

1. はじめに

本稿では、接続語コノウエとソノウエの用法分析を通し、文法論と表現論の接点を探る。

まず、接続語コノウエとソノウエが類義語であることを確認し、次に、両語の用法の違いについて論じる。両語の用法の違いは前件と後件の事態把握の違いによるが、それが、視点や語りといった表現論の問題に関わることを指摘する。

本稿は、コノウエとソノウエの用法の違いを論じた長谷部(2014)に一部基づく。それまでの研究においては、主にソノウエが<累加>や<添加>の接続詞としてサラニやソレニ、ソレカラなどと比較されることが多かった(森田1980、甲田2001、楊・馬場2004など)。それらの研究では、各接続詞において、前件と後件のどちらの情報に話者の力点が置かれているかという点や、後件の文末表現に注目した議論がなされている。こうした議論は、長谷部(2014)によれば、コノウエとソノウエの用法の違いを明らかにする根拠にならない。

なお、今回の分析にあたっては、現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言(以下、BCCWJと略記)から、用例を収集した。以下、各用例の末尾にその旨を付した。

2. 類義語としてのコノウエとソノウエ

両語は前件事態に後件事態が累加することを示す接続語である。また、以下の例において置き換えが可能なことから、類義語といえる。

(1)「おじいちゃんは、心臓が悪いんですよ。{コノウエ/ソノウエ}おばあちゃんがぼけたんじゃねえ。」(BCCWJ)

(2)ここで患部を痛めて{コノウエ/ソノウエ}冷やしてしまっは温泉療養の元も子もないが、今さらどうにもならず、数歩進んでは立ち止まるをくりかえしてようやく下山。(BCCWJ)

(1)(2)に示された文脈のみでは、コノウエとソノウエのどちらも許容される。しかし、実際には、前件と後件の解釈の違いによってどちらか一方に決まる。コノウエ、ソノウエのどちらが実際に使用されたか、は後述することにし、まずは、(1)(2)のように限られた文脈においては置き換えが可能だということを、ここで確認しておきたい。

ただし、両語を類義語として分析するにあたっては、品詞論の立場や「累加」という表現を使うことに対し、様々な異論がある。この点に関し、本稿における立場を明確にしておく。

2.1 品詞論の立場から

コノウエは副詞であり、ソノウエは接続詞ではないか、つまり両語は異なる品詞に属するのではないかという意見がある。また、各種国語辞典においても、コノウエは連語、ソノウエは接続詞とされることが多い。たしかに、異なる品詞の語を類義語として分析対象とすることには問題があるかもしれない。

ここで、話を例(1)(2)に戻す。この二つの例は、ともに後件部分が文末までかからず、従属節までとなっている。詳細は省くが、実は、(1)や(2)のように、後件が従属節部分までしかかからない場合、副詞か接続詞かといった議論では両語の用法の違いを説明できない。

したがって本稿では、副詞か接続詞か、連語かという議論は措き、両語を、前件と後件をつなぐ機能をもつ「接続語」(累加の接続語)の類義語として扱うことにする。

2.2 <累加>の接続語として

両語には前件に後件が累加する事態についてそれらを接続させるといふ、共通の機能がある。この「累加」という表現について、以下のように定義する。

本稿で、「累加」という語を用いた場合、これは前件事態に後件事態が単に加わる、という意味のみを表すのではない。話者が前件事態Xにある評価を与えることを前提とし、そこにさらに同様の評価性¹⁾を帯びた後件事態Yが加わることを意味する。さらに、前件と後件の事態X、Yは、相互に無関係ではない。本稿では、こうした観点から用いられる場合を「累加」とし、単に何かが加わることを意

味する場合「添加」とし、区別する。

接続語ソシテやソレカラは、話者の評価性という観点が加味される場合もあるが加味されない場合もある(ただし、評価性が加味されたとしても、そこには焦点が置かれない)。次の例(3)において、「花子が朝7時に起きた」事態と「1時間後に家を出た」事態に、関係性は認められる。ところが、前件事態(波線部分)がいつもどおりにおこなわれた行為であるため、話者は特にその事態に対して特別な評価を与える必要がない。同様に、後件事態(一重線部分)についても話者の評価は与えられない。なお、例文中、使用不可と考えられる表現には*印を、使用可能ではあるが許容度が低い場合に?印を付した。

(3) 花子はいいつもどおり朝7時に起きた。
{ソシテ/ソレカラ/ *コノウエ/ *ソノウエ}、1時間後に家を出た。(作例)

例(3)でコノウエやソノウエが許容されないのは、話者による評価が与えられない事態が重なっているからである²⁾。以上の理由から、コノウエとソノウエを、<累加>の接続語と定義する。

3. 用例分析

本稿では、長谷部(2014)の分析結果に一部基づき、分析を進める。長谷部(2014)では、両語の前件と後件の事態把握の仕方が異なることを指摘した。具体的には、前件、後件それぞれが、話者にとって未然事態(まだ実現・成立していない事態)なのか、あるいは已然事態(既実現・成立している事態)なのかという観点から、両語の用法上の違いを説明した。本稿では、3.1と3.2の一部(3.2.2まで)が長谷部(2014)と同様の見解で

あるが、3.2.3以降にソノウエの用法に關する新たな指摘を加える。

3.1 コノウエがつなぐ累加事態

長谷部(2014)では、コノウエが選択されるとき、前件Xは話者にとっての既然事態、後件Yは話者にとっての未然事態と把握されることを指摘した。

3.1.1 X既然事態+コノウエ+Y未然事態

以下は、コノウエの用例である。用例はすべてBCCWJからのものである。

(4) シルフィーの危機に、セイルは、再び呪縛と戦って立ち上がろうとした。エルスフォースは助けられなかった。{コノウエ/*ソノウエ} シルフィーまでも失うわけにはいかない。特に、シルフィーを失うわけには…。(BCCWJ)

(5) 最近の日本人なんて特にバラバラで、一つの意見に国全体がまとまることがないんだから。もう自民党の総裁なんて屁みたいなもんでさ、中学生の子供だって悪口がいえる時代じゃない。{コノウエ/*ソノウエ} 社会党なんかでできたら、まるっきりまとまらない国になる。(BCCWJ)

コノウエを用いるとき、その前件(「コ」が承けている事態、波線部分)は、話者の発話時において、既に実現もしくは成立した事態(既然事態)である。そして、後件(前件に累加する事態、一重線部分)は、発話時においてまだ実現・成立していない事態(未然事態)である。

3.1.2 (X+)コノウエ+Y未然事態

コノウエを使用する際、前件Xが明示されないことがある。

(6) 小説家高見順は、七月二十三日、新聞記事を紹介していて、大豆を一粒づつ

潰して米と煮る方法、また、大豆、とうもろこし、野草、すべて粉にして配給せよ、との投書。ぼくは読んでいないが、この頃になると、新聞にも、「{コノウエ/*ソノウエ}、都民大衆をひよるひよりにさせないで欲しい」「味噌も醤油もない日々が半月」といった文字があらわれていた。(BCCWJ)

例(6)には、前件がない。しかし、文脈から戦時下における栄養状態の悪さや生活苦といった現状が容易に推測できる。「現状」とは、話者の周囲で既に実現・成立している事態であり、それは既然事態と言える。一方、後件Yは未然事態である。したがって、前件が明示されないコノウエの場合も、Xは既然事態、Yは未然事態という解釈が成り立つ。こうした例も、3.1.1で示したコノウエの基本的な用法から逸脱するものではない。

3.2 ソノウエがつなぐ累加事態

長谷部(2014)では、X+ソノウエ+Yとなるとき、前件Xと後件Yがいずれも未然事態であるか、あるいはいずれも既然事態であると指摘した。本稿では、その要件に加え、XやYの各事態が、未然事態や既然事態と判断しにくい場合についても言及する。

3.2.1 X未然事態+ソノウエ+Y未然事態

前件と後件がともに未然事態の場合、ソノウエが使用される。

(7) ぼくがレックスをつれて家に帰ったら、パパやママはきつとびっくりするだろう。これから、ぼくはレックスに芸をしこんでやろう、レックスは家の番をするだろうし、{ソノウエ/*コノウエ}、先週の木曜日の映画みたい

にギャングを見つける手つだいをして
くれるだろう。 (BCCWJ)

- (8) 「奴らを東京中引き回すと、二ついいことがあるんだ。八代さんには、なん
十人もスパイとやくざの身元が一度
に割れるという、またとないチャンス
を提供できるからね。{ソノウエ/*
コノウエ}、人数も一度に把握できる。
でも、今日はもう出かけないよ。明日
は奴らを横浜へドライブに連れてって
やる」 (BCCWJ)

- (9) 左文字は、嬉しそうに笑ってから、
「しかも、この犯人は、現在、不遇な立
場に置かれていると見ていいと思う。
彼が、天才的な頭脳の持主で、例えば、
若くして、数学なり、科学なりの権威
者として認められていたら、第一、こ
んな誘拐事件は引き起こさなだらう
し、『君は狂っている』といわれても、
笑って聞き流す筈だ。(中略)とこ
ろが、天才的な頭脳の持主なのに、世
中に入れられず、{ソノウエ/*コ
ノウエ}、『変り者』といわれたらどう
だろう？ (以下略)」 (BCCWJ)

ここで、(7)～(9)の各用例の「未然事態」
の表現のしかたに注目したい。(7)は、前
後件の文末にどちらも「だろう」が用い
られ、いかにも未然事態らしい。(8)は
前後件の文末はともに断定調である。し
かし、前件以前に「奴らを東京中引き回
すと」という假定条件の文脈があり、そ
れに対する結果が未然事態として前後件
で述べられている。(9)は、前後件が、假
定条件の条件節内にあり、假定の話をし
ているのだから、X、Yはともに未然事態
である。「未然事態」と判断される場合、
それを示すための決まった文末形式があ

るのではなく、解釈によるところが大き
いといえる。

- 3.2.2 X既然事態+ソノウエ+Y既然事態
前件と後件がともに既然事態と解釈さ
れる場合が次の例(10)～(12)で、いず
れもソノウエが使用される。

- (10) アインシュタインは飛び立った。ど
こへ行くのか、昼間の生活圏がどこに
あるのか、訊くことはできなかった。
{ソノウエ/*コノウエ}、遅蒔きなが
ら事務所への帰り道で気がついたのだ
が、俺はどうとう、アインシュタイン
が彼なのか彼女なのかということも、
聞き損ねてしまったのだった。

(BCCWJ)

- (11) 信太郎は言った。「(稿者注：半田
は)この春、卒業して大学院に進んだ
奴なんだ。なかなか優秀な男だよ。{ソ
ノウエ/*コノウエ} 美男子ときてる。
きみと並んでいると、絵になるかもし
れない。(以下略)」 (BCCWJ)

(10)、(11)の前後件における「既然事
態」の表現形式についても確認しておき
たい。(10)は、過去時制を表すタが前後
件の文末に現れており、このことから容
易にX、Yがどちらも「既然事態」であ
ることがわかる。一方、(11)のX、Yはと
いうと、過去時制とは言えない。ただし、
話者の信太郎は、半田に対し「なかなか
優秀な男だ」とか「美男子」との判断を下
している。つまり、この場合、話者にとっ
ては各事態が既に成立しているわけで、
これも既然事態となる。本稿における既
然事態の判断は、時制が過去であるか
ないかという基準ではなく、あくまでも文
脈中での解釈による。

さて、次の例(12)は、X既然事態、Y

未然事態のようにみえる。

(12) 母親がかえってこないうちに、フェルコーはへやへもどりました。小さな空のことを考えると、うれしくてたまりません。{ソノウエ / *コノウエ}、あしたは校長先生のたんじょう日なので、学校の授業が一時間早く終わるのです。 そのばん、フェルコーはうれしくて、よくねむれませんでした。

(BCCWJ)

前件Xは已然事態である。これに対し、後件Yは、明日のことだから未然事態、という単純な話ではない。「あしたは校長先生のたんじょう日で、学校の授業が一時間早く終わることが確定しているため、うれしくてたまらない」と解釈できる。つまり、「フェルコー」は、明日の確定事態(明日校長先生の誕生日で学校が一時間早く終わることを想像しうれしくてたまらないと述べているのである。確定事態であるから、これも已然事態である。

3.2.3 X一般条件事態+ソノウエ+Y一般条件事態

3.2.1では前件と後件がともに未然事態のとき、3.2.2ではともに已然事態のときに、いずれもソノウエが使用されることを述べた。これは長谷部(2014)に準ずる。

ところで、実際には上のいずれにも該当しない場合にソノウエが使用される例が散見される。

(13) とくに気をつけておきたいのは、塩分や動物性たんぱく質、あるいは動物性脂肪のとりすぎと野菜不足。ふだんからこうした食生活をし、{ソノウエ / *コノウエ} 野菜不足とか不規則な生活が重なると、腸の機能は完全におとろえて、宿便がたまりやすい体質に

なってしまうことになる。(BCCWJ)
(14) やっぱり、数学ってセンスがないと上達しないんじゃないの？ たしかに、数学が好きで、数や式を年明けじっているような人じゃないと、「十二分三十秒が2分三十秒の5倍だ」なんていうことは気づかないかもしれませんね。{ソノウエ / *コノウエ}、「5という数は3+2で、3と2の差は1だ。」『同じ方向にまわると十二分三十秒後に初めてA君がB君を追い抜く』ということは、A君が3周、B君が2周したことになる」なんて思いつかないかもしれません。(BCCWJ)

(13)も(14)も、前件Xや後件Yが未然事態なのか已然事態か判然としない。ただし、どちらの例もX、Yを含む文全体の意味は、「一般的には～ものである」とか「ふつうは～だ」といった、一般条件事態を表している点で共通している。構文的には、XとYがともに条件節中に用いられるケース(= (13))と、条件節から帰結句までを含む事態同士の累加を示すケース(= (14))がある。いずれも条件節を含む文脈でソノウエが使用されるという点で共通している。

では、条件節を含む文脈ならどんな場合でもソノウエが使用されるのか。前掲の例(5)では、条件節を含む文脈でコノウエが使用されていた。

(5) 最近の日本人なんて特にバラバラで、一つの意見に国全体がまとまることがないんだから。もう自民党の総裁なんて屁みたいなもんでさ、中学生の子供だって悪口がいえる時代じゃない。{コノウエ / *ソノウエ} 社会党なんかでてきたら、まるっきりまとまら

ない国になる。(再掲)

(5)は、後件に条件節を含む点で(13)や(14)と共通するが、意味的には異なるところがある。(5)の後件では、個別一回的な事態を仮定している。この場合は未然事態である。一方(13)は、個別一回限りの話ではなく、不規則な食生活をするとふつうは誰でもこうなるものだと、一般論を述べる文である。(14)では、数学好きな人に関する一般論を述べている。一般論を述べる(13)や(14)の文は、X、Yで条件節を使用しているが、XやYが已然事態なのか未然事態なのか判然としない。その点で、個別一回的な事態を未然事態として仮定する条件節(仮定条件)とは異なるのだ。

次の(15)も、未然や已然といった議論ができない例である。

(15) 中学の三年間には、身長も体重も、{ソノウエ／*コノウエ} 論理的思考力もすばらしく発達します。一年生と三年生とでは、まるで子どもとおとなのようにちがってきます。(BCCWJ)

(15)には、条件節は見当たらない。しかし、意味としては、人間一般について、中学の三年間を経ると、X、Yのようになるものだという一般論を述べている。これについても、未然、已然といった基準は適用されない。つまり(15)は条件節を含まないものの一般論を述べているという点で(13)や(14)と共通しており、同様に一般条件事態と言える。なお、一般論を述べる文脈ではソノウエが使用される。

本稿では、コノウエとソノウエの用法の違いに関わる前後件の事態把握に関し、未然事態、已然事態に加え、一般条件事態という基準を新たに設定する。

3.2.4 X已然事態+ソノウエ+Y一般条件事態など

3.2.1～3.2.3では、XとYが、ともに未然事態や、ともに已然事態の場合、あるいはともに一般条件事態の場合にソノウエが選択されることをみた。次に、X、Yが異なる事態把握のケースを紹介する。

(16) ヘザーの両親は六週間の家出という彼女の決定を、とても賢明とはいえないと考えた。(中略) 六週間ほど家を出て生活しようというヘザーの決定はかなり無鉄砲なようだが、母親が考えるほど危険なものではさらさらなかった。{ソノウエ／?コノウエ}、ティーンエイジャーが自分のことを自分で決める練習をしないなら、独立することも申し分ない大人になることもできないだろう。(BCCWJ)

(16)は、Xが已然事態、Yが一般条件事態である。ただし、後件Yにある「ティーンエイジャー」が、提喻的に「ヘザー」のことを指しているのだとしたら、コノウエが可能である。それは後件が個別一回的な未然事態と解釈されるためである。しかし、実際のYではティーンエイジャー一般について語られているため、一般条件事態となり、ソノウエが用いられている。

次の(17)は、X一般条件事態、Y已然事態の例である。

(17) 広告の主要媒体のなかでビジネスとして魅力があるのはテレビである。コスト効率がよく、比較的手間がかからない。電通はこのテレビ媒体で圧倒的に強いのである。テレビ局の経営は広告収入に支えられているから、ただでさえ広告会社の立場は強いのだが、

{ソノウエ / *コノウエ} 電通は、民間放送局が開局する際、資金や人材などで多大な援助を行った。テレビに対する影響力は、こうした歴史にも由来している。(BCCWJ)

ここでもやはりソノウエが選択される。

3.3 コノウエ、ソノウエがつなぐ累加事態

ここまでの分析を表1にまとめる。なお、冒頭の例(1)(2)をもう一度確かめたい。(1)(2)は実際の用例の一部を抜き出したものだったが、前後の文脈から、X、Yの事態把握が明確になる。(18)は、Yが未然事態であれば、コノウエが選択されるが、実際には「おばあちゃんがぼけはじめ」ており、已然事態。つまり、X 已然事態、Y 已然事態となり、実際にソノウエが使用されている。(19)は、X 已然事態、Y 未然事態ならコノウエであるが、XもYも未然事態のため、ソノウエが選択されている。

(18)「どうもぼけはじめたらしいのよ。」

「ええーっ！」(中略)

「おじいちゃんは、心臓がわるいんでしょ。{ソノウエ / *コノウエ}、おばあちゃんがぼけたんじゃねえ。」と、トン子さん。(=前掲(1)を補足)

(19) ここで患部を痛めて {ソノウエ / *コノウエ} 冷やしてしまっては温泉療養の元も子もないが、今さらどうにも

ならず、数歩進んでは立ち止まるをくりかえしてようやく下山。

(=前掲(2))

ところで、今回調査したBCCWJのデータに、①X一般条件事態+Y未然事態や、②X未然事態+Y一般条件事態、③X未然事態+Y已然事態という用例はなかった。このうち①に関しては、理論的にはあり得、その場合、おそらくコノウエが選択されるはずである。一方、②と③は、未然事態を想定した上で一般論を述べたり已然事態を述べるというのは理論的にあり得ない。したがって、①のパターンの用例が得られなかったのは、BCCWJのデータ内にたまたまなかっただけであり、②と③のパターンの用例がなかったのとは根拠が異なる。

4. 事態把握の違いが示唆すること — まとめてかえて —

コノウエとソノウエの基本的な使い分けは、累加する前件Xと後件Yの事態把握の違いに基づく。本節では、この基本的な使い分けが他にどのような議論を可能にするか、次の2つの観点から検討する。4.1では指示語の観点、4.2では語りの観点からそれぞれ考える。

4.1 指示語の観点から

指示語は、これまでにさまざまな議論

【表1】コノウエ・ソノウエがつなぐ累加事態

	前件X	後件Y	Yが個別的・一回的か
コノウエ	已然事態	未然事態	個別的・一回的事態
	未然事態	未然事態	
ソノウエ	已然事態／	已然事態	非個別的・非一回的事態
	一般条件事態	一般条件事態	

がなされてきた。その中で、現場指示用法か、文脈指示用法か、あるいはそれ以外の用法(観念用法や曖昧指示用法など)か、という議論がある。また、指示語の示す時間的な側面に言及するものもある。このような議論と、コノウエ、ソノウエの事態把握の違いがどう関わるか、それは今後の課題だが、3節までの分析が示唆することを以下に述べる。

4.1.1 コノウエの事態把握と話者の視点

本稿のこれまでの分析で、コノウエは已然事態Xに未然事態Yが累加することを示す接続語であると述べた。3.1に示した各用例を見る限り、已然事態は、話者が現在の立ち位置から見てそれ以前に実現している事態である。未然事態とは、現時点でまだ実現していない事態である。つまり、コノウエは、XとYの事態の累加が、話者の現在を境に語られる表現と言える(図1)。

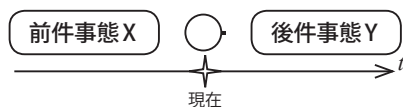


図1 コノウエの事態把握と話者の視点

なお、コが承ける前件事態Xは必ずしも文章化されるわけではなく、省略され現状を意味する場合もあることは先に述べた。しかし、前件Xが省略される場合も、「現状」という意味での文脈を指している。

コノウエについて、話者の事態X、Yに対する把握の仕方、および話者の視点は図1ようになる。これは、事態に対する当事者的な意味合いをもたせ、コ系指示語の文脈指示用法が現場指示的である

というこれまでの指摘と重なる。

4.1.2 ソノウエの事態把握と話者の視点

ソノウエの事態把握は、さまざまなパターンがあったが、図2のようにまとめられる。

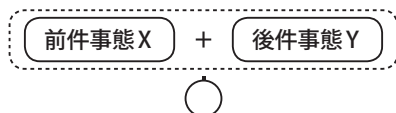


図2 ソノウエの事態把握と話者の視点

ソノウエは、事態X、Yを、話者のいる現在時を介さずにひとまとまりの累加事態(図2の点線で囲まれた部分)として捉える表現だと言える。これは、ソノウエが、累加するふたつの事態の間に話者を介させないことで、より客観性のある表現となることを示唆する。ソ系指示語がいわゆる純然たる文脈指示と言われる所以ではないだろうか。

4.2 語りの観点から

4.1で指摘した視点の問題を、実例に沿って、語りの観点から検討する。なお、例文(20)(21)中の[A]~[F]は、稿者による。

(20)「[A]なるほど…それで菊乃親子はどうしました」

「[B]さあ、それです。そのときの松、竹、梅の恐ろしさが、よほど心魂に徹したのでしょうかねえ。[C] あのようない札は入れたものの、[D] まだコノウエ、どんな危害を加えられるかもしれない [E] と、赤ん坊—それが静馬なのですが—を抱いたまま行方をくらましてしまったのです。(以下略)」

[F] 古館弁護士はそこまで語ると、ほっと暗いため息をつくのである。

(BCCWJ)

例(20)の[A]は登場人物のひとりである金田一耕助の発話、[B]～[E]は同じく登場人物のひとりである古館弁護士の発話である。[F]は、この物語の語り手によるナレーションである。以下、古館弁護士の発話内容を詳しく見る。[B]は、古館弁護士の菊乃親子に関する解説([A]の問いに対する答え)である。そして、[C]も、[B]から続く古館弁護士の解説と考えられる。ところが次の[D]は、直後に引用符「と」が使用されているため、古館以外の誰かの(心内)発話を古館が引用していると解釈できる。続く[E]は、再び古館の解説である。

ここで、[D]の引用元である「古館以外の誰か」というと、それは菊乃であろう。[D]にはコノウエが用いられていることから、[D]のコノウエ以下は未然事態である。4.1.1で述べたように、コノウエは、X既然事態とY未然事態の累加を、現在を境に語る表現であった。では、誰にとっての「現在」か。菊乃にとっての現在である。とすると、[C]も[D]と同様、菊乃の(心内)発話を古館が引用しているとも解釈できる。つまり、[C]部分は、古館弁護士の解説の続きとも言えるし、菊乃の心内発話の引用とも言え、二通りの解釈が可能である。この解釈の違いは、[B]と[C]の間で古館の視点が移動したのか、あるいは[C]と[D]の間で視点が移動したのかという違いとも言える。

例(21)の語りについても同様に検討する。

(21)[A]シルフィーの危機に、セイル

は、再び呪縛と戦って立ち上がろうとした。[B] エルスフォースは助けられなかった。[C] コノウエシルフィーまでも失うわけにはいかない。[D]特に、シルフィーを失うわけには…。

例(21)における[A]～[D]の話者は、物語の語り手である。[A]と[B]は、物語の語り手が状況を語っていると考えられる。このうち[B]と、次の[C]は、コノウエの前後件事態であることから、[B]既然事態、[C]未然事態である。この[C]で、実際に「コノウエシルフィーまでも失うわけにはいかない」と考えているのは誰かということ、物語の語り手ではなく、セイルであろう。つまり、[A]以下は物語の語り手が語っているものの、視点は物語の語り手からセイルへと移動し、引用符を用いずにセイルの心内発話を物語の語り手が代弁(引用)しているものと考えられる。ここでもう一度遡って[B]の話者と視点の関係について考えてみる。[B]は、物語の語り手が話者。視点は、物語の語り手の可能性もあるが、[C]とのつながりからセイルの視点ともいえる。したがって、(21)も(20)のように、コノウエの前件事態の解釈が二通りあることになる。

ここで、例(20)において[C]から[D]へと視点が移動したり、例(21)において[B]から[C]へと視点が移動するケースについて、補足する。コノウエを挟んで視点が移動するという解釈を可能にするのは、3.1.2で述べたコノウエの(前件Xが省略され、現状を指すという)特徴によるものと考えられる。

なお、コ系指示語の使用によって臨場感をもって聞き手や読み手に伝わること

は既に指摘されてきたが、上の例からもそれがわかる。どちらの例においても、実際の話者がそれ以外の登場人物の発話を引用、または代弁するなどしており、我々読み手は、コノウエの使用により、引用元の人物のいる仮想の“現在”に引きつけられるのだ。しかし、どちらも解釈が二通りあることから、どの時点で臨場感を覚えるのかは、読み手によりそれぞれ違ってくる。

ところで、例(20)や(21)は、いずれもコノウエが使用される文脈で、かつ語り方の違いや話者の視点の移動、解釈の違いが生じることを述べた。では、ソノウエが使用される文脈が示唆することとは何であろう。語りと視点といった観点からこれまでに挙げた例を見てみると、次のことが指摘できる。ソノウエの使用に際しては、ソノウエを挟んで話者が変わったり、視点が移動したりすることがない。言い換えれば、ソノウエを使用した場合、話者はソノウエの前後件の累加事態をひとまとめの事態として語り、コノウエよりも客観的な述べ方になる。コノウエとソノウエのこうした違いは、前項図1(4.1.1)と図2(4.1.2)の違いと一致する。

注

- 1) この評価性は、プラスの評価(肯定的な評価)やマイナスの評価(否定的な評価)という表現で説明できることが多いが、より正確には、「程度や量が基準を超えている(強いて言えば too much)と話者により判断される評価」を意味する。
- 2) ただし、コノウエが許容されないのは、後件が未然事態ではないという、

別の理由による。

参考文献

- 甲田直美(2001)「時空間から談話へ：時空間における位置関係と談話領域における位置関係」『滋賀大國文』39, pp.16-32.
- 長谷部亜子(2014)「接続詞コノウエ/ソノウエの選択要因とその優先順」『日本語文法』14-1, pp.37-53, 日本語文法学会.
- 森田良行(1980)『基礎日本語2』角川書店.
- 楊曉輝・馬場俊臣(2004)「接続詞「そして、それから、それに、そのうえ」の用法」『北海道教育大学紀要(人文科学・社会科学編)』54-2, pp.27-42.

用例検索エンジン

国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言(BCCWJ)」

付記

先におこなわれたシンポジウムにおいて、パネリストの早津恵美子先生、木下りか先生、司会の多門靖容先生、そして当シンポジウムに足を運んでくださった諸先生方に、有意義かつ貴重なご意見をいただいた。この場を借りて感謝申し上げます。一方で、本稿は、いただいたすべてのご意見に応える論考にはなっていないかもしれない。この点については私の力量不足であり、今後の課題としたい。なお、シンポジウムではレトリックとの関連についても触れたが、本稿では紙幅の関係上割愛した。

(愛知学院大学研究員)